

## 「変わりゆく病院現場で臨床検査技師に求められる役割」

宮崎県立日南病院

診療部・臨床検査科病理（兼）医療企画部・医療連携科

木佐貫 篤

小泉改革の一環として、医療制度においても医療費削減の強い圧力や各種産業の参入などをうけ、急性期病院へのDPC導入、療養型病床の廃止、外部委託の推進、など様々な動きがある。また医療事故報道や様々な医療情報の広がりから患者側の医療へのニーズも高くなっている。このように医療機関をとりまく状況は厳しさを増す一方である。

宮崎県立日南病院も、今年4月から地方自治法全部適用（全適）となり、今年8月には巨額の赤字を解消するための中期経営改善計画が策定され、改革待った無しの状態である。われわれは医療の質だけではなく、収益という経済的な面も考えねばならない。

2000年4月の県立日南病院赴任後、病院機能評価事業への関与や2003年からの地域医療連携業務担当を通じて、病院やそれを取り巻く地域の様々な現場をみて問題点を認識する機会を得ることが出来た。多くの問題点を抱えている病院を改革していくためには、従来の縦割り業務を越えた、組織横断的なマネジメントであるクリティカルパス、地域医療連携、感染対策、医療安全対策、NST、褥創対策などのチーム医療推進の重要性を実感している。

本講演では、日南病院での地域医療連携業務を紹介し、過去6年の経験からみえてきた病院マネジメントの在り方、これからの病院がめざすべき方向についてふれてみたい。そしてこのような厳しい環境の中で検査のプロフェッショナルである臨床検査技師は、今後何をめざしていくのか、どのように動くべきなのか、そしていかにして生き残るのか、私見を述べたい。